

第3回「保育所保育実践研究・報告」事業の概要

1. 目的

改定「保育所保育指針」が厚生労働大臣告示となり、保育士には専門職としてのより高いレベルの保育実践が求められます。日本保育協会では、保育士の専門性の向上のために、今日的な課題と日々取り組んでいる保育実践に関する研究・報告を募集します。

応募いただいた研究・報告は企画・審査委員会での審査を経て、表彰や発表会及び「保育所保育実践研究・報告集」を発行し、保育内容の向上と充実を図ることを目的とします。

2. 主催 日本保育協会（日本学術会議協力学術研究団体）

3. 後援 日本保育士協会

4. 対象 日本保育協会会員保育園

5. テーマ

（1）課題研究

- ① 乳児の保育について（人との関わり、離乳食、睡眠等）
- ② 配慮が必要な子どもの保育について
- ③ 食事・食育に関する取り組みについて
- ④ 遊びと環境について（日常の保育の中から）
- ⑤ 保育園での健康と安全について

（2）自由研究

- ① 保育園での実践事例（地域の子育て支援や遊びの指導、虐待や発達障害の問題等）
- ② 保育園（地域）での調査研究など

6. 執筆要領

- （1）原稿は学会・保育団体・専門誌等に未発表のものに限ります。
- （2）原稿はパソコンで作成し、A4判横書き12ポイントで1枚を40字×40行（1,600字）とし、5枚（8,000字）以内を厳守してください。
- （3）別紙の研究の要旨を1部、印刷した本文を3部お送りください。あわせて同様の内容を保存した2HD（WINDOWS）のフロッピーをお送りください。
- （4）図・表・写真は挿入箇所が分かるようにして、お送りください。（字数には含みません。）
- （5）原稿の返却はいたしません。また、募集要綱の目的以外には使用しません。
- （6）審査委員会において選ばれた原稿については、研究・報告集に掲載いたします。その際の著作権は日本保育協会に帰属します。

課題研究④ 遊びと環境について

『「遊びや環境をデザインする力」とは』

日本保育協会青年部保育委員会(平成18年・19年度)・坂本 喜一郎、竹内 勝哉

【問題の提起】

保育委員会(平成18年・19年度)は、『保育所におけるよい保育とは』というテーマを設定し研究活動を始めた。その特徴は、保育(養護と教育)におけるもう1つの重要な機能である『教育』的側面に意図的に主眼を置き、中でも日々の「遊びを通しての子どもの育ち(学び)」の重要性に注目しながら、保育所保育の持つ可能性を探っていくという点にある。

議論を重ね深めていく中で、保育所の特徴を活かした様々な「保育所だからこそのこと」を発見することができ、一覧にまとめることができた。その一方で、日々の「遊びを通しての子どもの育ち」を保障していく上で何よりも大切にしたいこととして見えてきたものに、「一人一人の子どもがとことん遊びこめる環境作り」があった。そして、「子どもがとことん遊ぶことを通して学ぶ」プロセスを保障するためには、まず保育者自身が「子どもがとことん遊びこめる環境作り」を適切・適当に展開できるための質の高い『遊びや環境をデザインしていく力』を身につけていくことが重要なのではないかという考えに至ったのである。

【目的】

そこで、当委員会では、その後の研究内容として以下の4点を中心に研究を進めることにした。

- 1) 子どもが「とことん遊びこむ」ことの定義
- 2) そのために「必要な保育者の役割」の整理
- 3) 「遊びや環境をデザインする」ためのキーポイントの整理
- 4) (以上のことを踏まえ) 具体的な「遊びや環境のデザイン」の提案

【結果】

1) 子どもが「とことん遊びこむ」ことの定義

- ①子ども自身が、「やりたいこと(目標)」を持って遊ぶ
→「興味」・「関心」・「好き」などから出発した遊び
- ②子ども自身が、自らの「行動力」と「創造性」で、遊びを継続・発展させていく
→「またやりたい」・「わくわく感」・「試行錯誤」・「繰り返し」
- ③子ども自身が、「満足できるまで」・「納得できるまで」・「飽きるまで」遊ぶ
→「没頭・熱中」・「真剣・集中」・「満足感」・「充実感」・「達成感」

☆**遊び時間**：基本的な生活習慣の育成に弊害を与えるような時間設定はしないことを原則とする

2) そのために必要な「保育者の役割」

*参考：幼稚園教育要領解説

①よき理解者

→客観的な理解をする者

- ・「時間の流れ」：生活や遊びの中での今までの経験や現況の理解
- ・「空間の広がり」：子どもがどこで誰と何をしているかという集団の動きの理解
- ・「子どもネットワークの広がり」：子ども同士の間関係の広がり

②よき共動・共感する存在

→子どもと共に活動することで、心の動きや行動が理解できる

③よき憧れの存在

→保育者の行動1つ1つが子どもを引き付ける要素を持っている

④よき援助者

→「子どもの発達に応じた、タイミングのよい援助」

「子どもに寄り添ったさりげない援助」

「教育的な要素」の必要性

⑤よき心のよりどころの存在

→保育者は子どもの安定し落ち着いた心を持つための基盤となる

⑥よき情報（知識）提供者

→子ども達に対して豊かな情報や知識を提供できる存在となる

3) 「遊びや環境をデザインする」ためのキーポイント

①保育者自身が子どもと共に遊びや活動に取り組む

(子どもの気持ちや意識を共有しながら)

→「正確な一人一人の子どもの理解（保育記録（データ）を書くことも含）」

→「子どもの憧れ（遊びのお手本）としての存在」

②日々の時間的流れの中で、子どもの興味・関心・願い等の変化に伴い、継続的・発展的に遊びや環境を変化させていく(長期的視野を持って見通しを持つ・振り返る意味)

→遊びや環境が、保育者の創造性や工夫を活かしながら、昨日から今日そして今日から明日への流れの中で、見直され、再構成し続けられる

→保育者のさりげない（見えない）援助によって、子どもが新しく気づいたり・考えたり・やりたいという気持ちを持てるきっかけを作る

→保育者の意図によって教育的な価値のある環境（＝学び）を構成していく

③「一人一人の遊び」と「みんなで取り組む遊び」との相互作用の中で、継続的・発展的に遊びを展開していく

→「一人一人の遊び」がいかに「みんなの遊び」として発展していくか、また「みんなの遊び」の経験がいかに「一人一人の遊び」に影響を与え、継続・発展していくかといった相互関係を、保育者の適切な援助の下、デザインしていく

④「遊びや環境をデザインする」ためのワークシートの作成と活用

→遊びの広がりや発展、遊び同士の相互関係を把握する

→子どもに必要な遊びや環境を適切に提供する

- 次につながる保育記録（データ）を書くこと
- 子どもが「楽しかった」などと感じることができる「ゆとり（余韻）」があるか確認する
- 遊びの中で経験したことを子ども達同士発表する場（情報交換）がある
- 子ども同士の新たな認識・再発見・人間関係（信頼関係）の深まりへ

4) デザインの具体的方法（委員からの提案）

*参照 **資料1&2**

最後に、研究のまとめとして、前述した1～3の内容を念頭に置きながら、各委員が自園において子ども達や保育者と共に実際に活動した事例を題材に、具体的な『遊びや環境のデザイン』案を提示し合うこととなった。今回は、その中から2つの具体例を通して、デザインのあり方を提案してみたい。

尚、デザインのあり方は、決して1つの決められた方法に則って行われるものではなく、その園、そのクラス、そこに生活する子どもたちの思いや考え・生活スタイルや人物構成、保育者の人数や関わり方などによって複雑に変化していく。このことを踏まえ、遊びや環境のデザインは、その園ならではの特徴や個性が最大限に活かされてくるものであることも大切にしてもらいたい。

【考 察】

「保育所保育におけるよい保育」を探る中で、我々は「よりよい遊び環境づくり」を実現するために、まず保育者1人1人が質の高い「遊びや環境をデザインする力」を持つ必要性に注目し、実際に自分の園での保育実践を参考に、保育者と協力しながら委員自らもデザインしてみることでその重要性を検証してみた。

その結果、よりよい「遊びや環境のデザイン」を実現するために欠かせない課題として4つのポイントが見えてきた。そこで、以下にまとめてみたい。

- 1) 子ども自らの「行動力」と「創造性」をいかに引き出すか
- 2) 子ども同士が共有できる「テーマ」を持つ重要性和遊びの広がり
- 3) 「1人1人の遊び」と「みんなの遊び」の相互性をいかに発展させられるか
- 4) ワークシートをどこまで活用できるか

1) 子ども自らの「行動力」と「創造性」をいかに引き出すか

「遊びと環境のデザイン」は、日々の生活の中にある子どもの興味や関心から出発する。そして更に子どもの行動力や創造性が高まる中で、子どもの主体的な遊びが展開されていく。しかしその一方では、保育者も自らの創造性や工夫を活かしながら子どもと一緒に活動していく（共動）ことが求められ、両者の営みで遊びはさらに充実・発展していくのである。言い換えれば、「子どもの主体性と保育者の意図」のバランスが重要となってくるといえる。

しかし、ともすると子ども以上に保育者の思いが強くなりすぎる場面がよく見られ、その結果無意識のうちに子どもに活動をさせていたり、保育者のデザインに誘導してしまっ

ていることもよくある。そして、そのことに保育者が喜びや充実感を感じてしまうことがある。

保育者自らが遊びを発展的に捉え、見通しを持つことはとても大切なことではあるが、保育者の思い描いた環境デザインの中で、子どもを楽しませたり遊ばせたりすることとは違い、ともするとその危険性を十分に孕んでいるといえる。保育者は、自らの見通しの中で、様々な環境を子どものためにデザインし提供するが、その一方で子ども自身がそれを「ノー」と言える権利を保障できる柔軟な姿勢を持つことが重要となってくる。

2) 子ども同士が共有できる「テーマ」を持つ重要性と遊びの広がり

本来遊びは、1人1人の子どもの主体性によって成立するものであるから、保育者の意図で一方向的に遊びのテーマを提供する必要性はないのであろう。その一方で、子どもは心身の成長発達と共に、自然に仲間と一緒に活動することに喜びや充実感を感じるようになっていく。そして、子ども達を取り巻く共通の環境の中から共感できるテーマや出来事に出会うことはいたって必然的なことということもできる。

提案2の保育園は、海のない県にある。だからこそ子ども達の海への関心はとても強く、日頃から給食で食する魚にも高い興味と関心を示していた。そこで、遊び環境の中にもテーマとしての「海」が取り込まれるようになったのは自然な流れで、クラス全体の共通の話題になるまでにはそんなに時間はかからなかった。そして積極的に「海」の話題を生活の中に取り込んでいこうとする気持ちの高まりは、ピーターパンのお話にふれたことで、「海賊」へと変化・発展していくのである。こんな展開を4月当初、誰が考え付いたであろうか。

1人遊びは、その当事者の興味関心が薄れた時点で消滅してしまう可能性を孕んでいるが、みんなで取り組む遊びは、仲間の考えや思い・発見等、常に相互的に刺激を受け合い、新たな発見へのきっかけ作りとなっている。その結果、このクラスでは3月の終わりまで海賊ごっこが続くのである。

保育者が一方向的にテーマを提供することではなく、子ども達の生活の中から見出されたテーマは、子どもの遊びを充実させるに十分な魅力を持っていることを再認識させられた提案であった。

3) 「1人1人の遊び」と「みんなの遊び」の相互性をいかに発展させられるか

遊びを大きく類別すると、「1人1人の遊び」と「みんなの遊び」ということができる。「提案1」からもわかるように、本来遊びは1つのものであり、その落としどころが「1人1人の遊び」と「みんなの遊び」のどちらが最適なのかによりデザインが変わると考えることができる。また、「1人1人の遊び」が発展・継続していく中で「みんなの遊び」へと変化したり、その逆の場合も存在し、更にはその繰り返しによって遊びは高まっていくといえる。

子どもの生活の中から興味関心ある事柄を遊びのテーマとして採り上げることはとても有効であるが、みんなのテーマという意味合いが強いと結果的に「みんなの遊び（一斉活動）」としてしか展開されない危険性を孕んでいる。最悪な場合、「みんなの遊び」と「1人1人の遊び」が全く関係性のないものとして別々に展開されるだけでなく、「みんなの遊

び」は保育者が意図的に設定した遊び、「1人1人の遊び」は子どもの自由な遊びと区別され展開されていることも少なくない。提案1の実践による何よりの収穫は、遊びは本来1つであり、デザインの出発点やヒントは、子どもの日々の遊びの中にあるということである。

4) ワークシートをどこまで活用できるか

デザインのためのワークシートは、様々なものがある。言い換えれば、園においても、さらには保育者1人1人においてもそれぞれにとって最適な様式があるといえる。

その一方で、ワークシートを有効活用するためのポイントは共通のものが見えてくる。まずはワークシートを作成していくことで、遊びや環境の広がりや発展の見通しが立つ点である。特に、両提案においては、時間的流れの中での遊びの継続性・発展性が見てとりやすくなっているのがわかる。そこで、あとはこの時間的流れの中で、どのような空間的デザインが具体的になされ、それらの変化の様子をまとめていくかが次の課題といえる。

遊びや環境のデザインにおいて重要なことは、空間的にも時間的にも遊びを継続・発展的にデザインしていくことといえる。

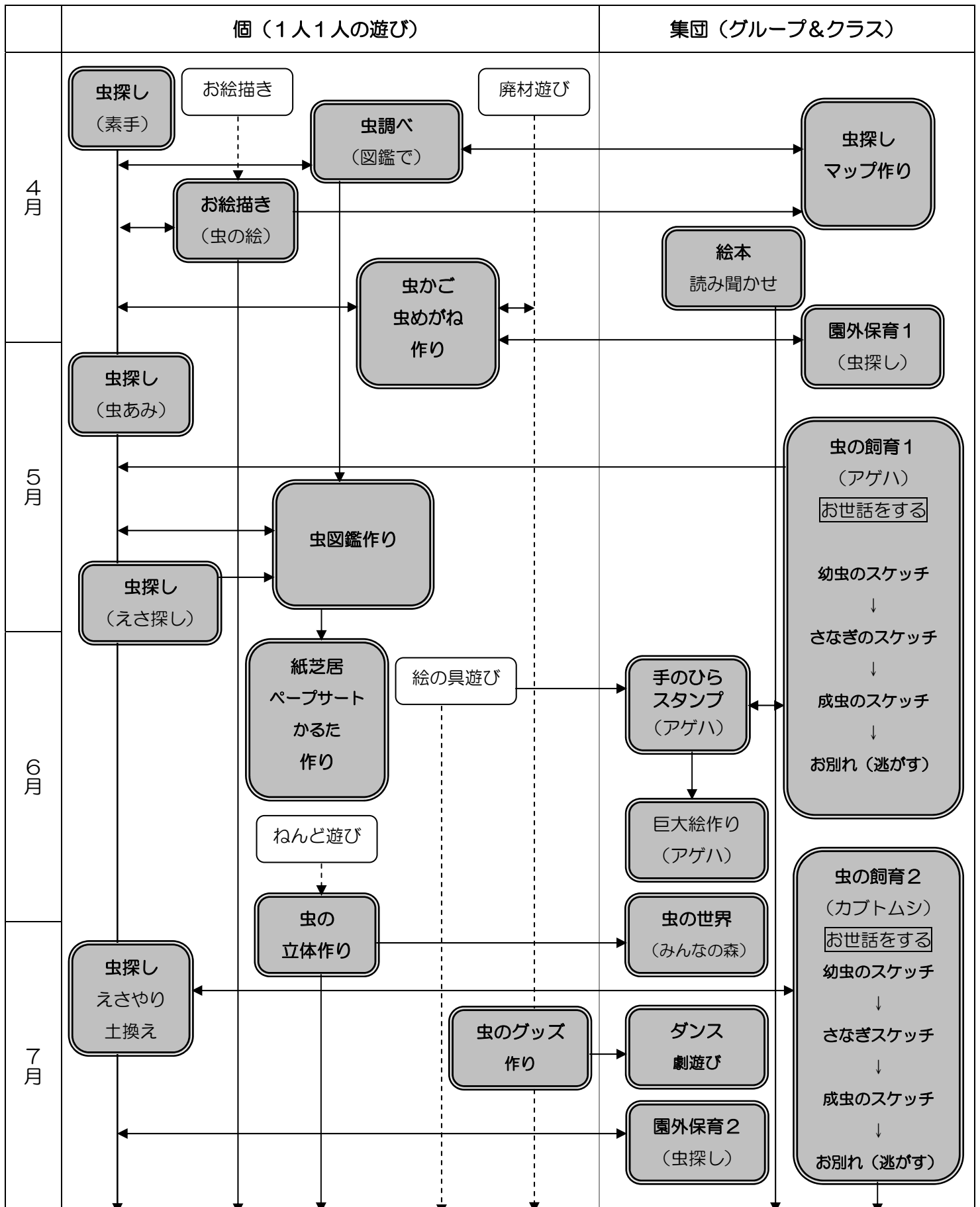
【まとめ】

当委員会では、2年に渡り、学びとしての子どもの遊びの充実を図り「保育所におけるよりよい保育」を実現させるため、保育者の『遊びや環境をデザインする力』に注目し研究を進めてきた。

そこで見えてきたものは、子どもと共に遊び・活動する存在としての保育者だけでなく、そこから見えてくる子どもの興味や関心・思い等をいかに汲み取りながらよりよい遊びや環境を適切にデザインすることで、継続・発展的な心身の成長を保証できるかといった保育者としての専門性を獲得・高めていく重要性であった。

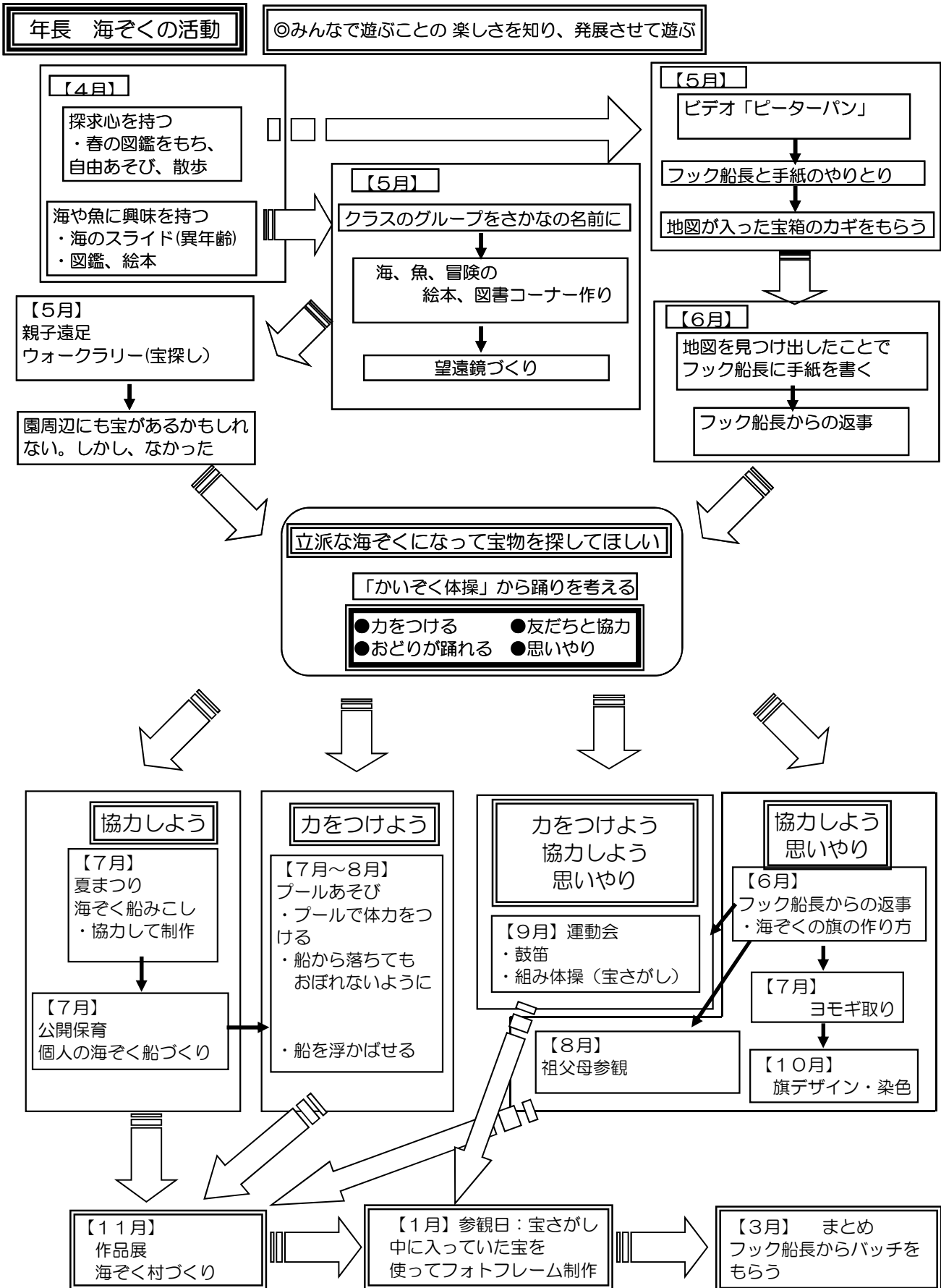
今時代は少子高齢化と家庭における子育て機能の低下等を踏まえ、保育現場の専門性を活かしたより質の高い保育の展開が期待されるようになってきた。そのためにも、今回の具体的な提案『遊びや環境をデザインする力』の重要性を提案させていただくだけでなく、よりよい遊びや環境づくりを通してよりよい子どもの心身の成長が窺え、その結果保育者の保育への充実感・達成感にもつながる一連の過程がとても大切であると考えている。言い換えれば、保育者がそれらの手応えを繰り返し体験し、「保育を楽しむ素晴らしさ」の獲得につながるからこそが、よりよい保育の実践の原動力になると考えている。

今、日々忙しい保育現場で何より必要なことは、保育者自身が「保育を楽しむ気持ちや姿」を取り戻すことだと痛感している。そのためにも、重要な専門性の1つとして保育者1人1人に『遊びや環境をデザインする力』を身に付けていただければと強く願って止まない。



【デザインのポイント】

- ①「虫探し」という遊びが、様々な遊びへ発展しながら継続・展開されていく様子を時間的流れに沿ってデザインした
 - ②「個」の遊びと「集団」の遊びが、相互に関連し合いながら発展していく重要性をデザインした
 - ③「虫探し」遊びが他の遊び（お絵描き&廃材あそび）と相互に関連し合いながら発展していく重要性をデザインした
- ★「個」と「集団」の遊びは、独立したものではなく、「1つの遊び」の発展&継続の過程で、「個」や「集団」の遊びに変化・発展しながら展開されていくものである。



〔デザインのポイント〕

- 子どもと活動する前に必ず話し合いの時間を持ち、意見やアイデアを出し合ってクラスの意見をまとめる。子どもの意見を出させ、採り上げる。
- わくわくする気持ちを持たせるような活動にするために、保育士が「しかけ」を設ける。
- 保育園だけでなく、保護者に活動の様子をお便り等で知らせ、親子で話題を盛り上げたり、関心を向けさせる。

課題研究③ 食事・食育に関する取り組みについて
『心と体を育てる楽しい保育～食育グループの活動とクラス実践を通して』
沖縄県・第2 愛心保育園主任保育士 玉城 久美子

1. はじめに

子ども達の心と体を健やかに育む食生活。保育園においても、一人ひとりの発達段階や家庭状況に合わせて「食育」を実践し、乳幼児期からの正しい食習慣を身につける必要がある。ということを踏まえ、平成19年度から子ども達や保護者にいかに“食”の大切さを伝えていくのか、園内外の研修会や勉強会を進めながら、職員で試行錯誤し取り組んできた。そのような中で子ども達の食に対する興味や関心、食事のマナー、感謝の気持ちなどが着実に芽生えてきた。

保育の中でも家庭の台所や食卓でも、“食”に関して大人とやり取りをする場面が多いほど、子ども達の食べようとする気持ちは育まれていく。今年度は職員で構成している食育グループを中心に食育計画をたて、様々な働きかけや環境づくりを通して、「食事の時間が待ち遠しい！楽しい！」と思えるような子ども像を目指し、現在取り組んでいる状況などをふまえ、実践事例を紹介したいと思う。

2. 保育園の概要

待機児童解消のため、愛心保育園・分園（定員40名）として沖縄県で初めて設置されたが、更なる待機児童解消のため園舎を増築し、平成19年度、第2 愛心保育園（定員90名）として設置認可を受ける。当園は、交通量の多い国道から少し中に入った静かな住宅

施設名 社会福祉法人 玉重福祉会 第2 愛心保育園

所在地 那覇市字国場251-1

設立年月日 平成13年4月1日・愛心保育園 分園

平成19年4月1日・第2 愛心保育園

面積・建物 敷地 (784.72 m²)・建物 (686.69 m²) 鉄筋コンクリート造3階建

定員・現員 90名(現員107名)

平成20年11月1日現在

年齢	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
定員	12名	12名	15名	18名	18名	15名	90名
現員	16名	21名	18名	20名	19名	13名	107名

職員構成 園長1名・副園長1名・主任保育士1名・保育士19名・

看護師1名調理員3名(パート1名含む)・・・計26名

特別保育事業 乳児保育・障がい児保育・一時保育・延長保育(午後8時まで)

街に設置されており、近くには国場川が流れるその川沿いを子ども達は散歩コースとして様々な小動物や自然に触れ、楽しんでいる。

3. 研究の目的

- (1) 食育グループを中心に、各クラスや全体の活動計画を充実させる。
- (2) 「楽しく食べる子ども」に成長するために、食べる意欲を育みながら食事の大切さを伝える。
- (3) おいしい会を通して、友達や保育士、保護者と食に関する様々な情報を共有し、食を営む基礎を培う。

4. 研究方法

- ☆研究テーマについて、全職員の共通理解を図る
- ☆各クラス、食育グループ等の計画・指導事項の検討
- ☆栽培活動とその収穫（経緯と結果）
- ☆クラスや食育グループの活動の取り組み
- ☆保護者へのアンケート調査実施

5. 食育活動状況

- ① 食事の時の環境設定（テーブルセッティング・BGM・陶器の食器）
- ② 食材紹介
- ③ 子ども達の当番活動
- ④ 栽培
- ⑤ バイキング形式の食事等
- ⑥ クッキング
- ⑦ 調理員との交流
- ⑧ 食育グループ活動（おいしい会への参加）
- ⑨ サンプル展示（昼食、おやつ、延長保育）・食育だより等で保護者への情報提供

*各クラスにおいての食育活動は、年間指導計画にもとづき計画実行している。（資料1）
（実践後は、活動記録を記入し、反省・評価をふまえ次回の活動につなげていく）

クラスでの実施状況（資料4）

【実践1】おにぎりパーティーをする（4歳児）

<動機>

桃組（5歳児）がバジルを収穫し、スパゲッティを作った話を子ども達に話すと、「やりたい」という声があがったので、まず手はじめに、簡単なおにぎり作りからはじめる。

<ねらい>

保育士やお友だちと作ることを楽しむ

<活動方法>

3種類の具材を準備。各自でラップにご飯をよそい、その中に好きな具材を選び入れる。

<子どもの姿>

子ども達を前におにぎりの作り方を説明すると、どの子も興味津々の様で、真剣に聞いている。お友だちが作っている様子を側で眺めてはいるが、どの子も「早くやりたい」と、あせる姿も見られた。ご飯を丸めたりするのに少し四苦八苦する子も見られましたが、どの子も最後まで、一人でおにぎりを作ることができた。おにぎりの具材選びから試食まで、子ども達はとても楽しそうで、「家でも作る」等の声も聞かれた。いつもより食も進み、自分で作ったおにぎりに満足そうであった。

<結果・考察>

おにぎり作りが初めての子が多く終始笑顔で楽しめた。次もやりたいという期待感も見られ良かった。具材の種類を増やしたり、いろいろな米の種類があること等、お米についての話し合いをもち、ご飯についての知識を知らせていきたい。

【実践2】調理員とのふれ合いを通して（3歳児）

<動機>

子ども達の好き嫌いには個人差があるが、その中でも緑黄色野菜はなかなか食が進まない子が多いため、調理員から食についての話をしてもらい、食べる喜びや意欲につなげていきたいと思った。

<ねらい>

調理員とのふれあいを通して食に関心を持つ

<活動方法>

いつもは給食当番が行っているメニュー紹介や食材の働きなどを調理員に説明してもらう。その後一緒に食事を楽しむ。

<子どもの姿>

普段なかなか話を聞くことの少ない調理員の話に、静かに耳を傾けていた。食材を手に取りながら、子ども同士で話す姿も見られたり、また、共に食事をする場面においては、調理員との会話を楽しみ、「いっぱい食べる」などと、自己アピールする子もいた。

<結果・考察>

調理員の話にはとても興味を示し、集中して聞く姿が見られた。食材一つ一つを説明し、その働きや今日の給食の中でどこに使われているのかを知らせていたので、食事中も、意識して食事をする姿が見られた。また一緒に食事をしながらふれ合う中で、励まされたり、褒められたりしながら、食に対する意欲が現れてきたことは成果につながっている。

6. 食育グループの取り組み

今年度、新しい試みで食育グループという「食育」を柱にした活動を行うグループを充足し、活動計画を立てた（食育担当メンバーは調理員と各クラスから一人ずつ参加する）

食育グループの役割

- 給食・食育会議において、食育グループおよび各クラスの活動計画や内容を確認し、食育活動が円滑に進められるようにする。
- 食育グループの活動は、年間計画に基づき月一回の食育会議にて確認し、実践につ

なげる。

- 栽培活動をする（季節ごとの菜園計画を立て、調理員と連携し、収穫時の計画と取り組みを考える）
- 各クラスの食育活動の確認・援助

活動

- ・月一回の食育会議に参加
- ・年間食育活動の計画を立案
- ・各クラスの食育活動の援助
- ・おいしい会の主催
- ・栽培等の植え付け・生育（環境グループと提携）
- ・食育活動の報告
- ・保護者へのアンケートや食育コーナー等を通し、保護者の意識を高めたり情報を発信する
- ・おいしい会での情報提供と掲示

おいしい会の発足（資料3・4）

4・5月の食育会議にて食育グループ独自の活動があっても良いのでは？という意見があがり、食をテーマにした月一回の活動の場を設けることにした。それが「おいしい会」である。

【おいしい会8月の実践】ゴーヤーの収穫を楽しもう（試食）

<動機>

今年園庭の一角にゴーヤー棚を設置し、小さいながらもゴーヤーが実り、4歳児・5歳児で収穫をする。収穫したゴーヤーをその場で味わえる体験はなかなか出来ないので、今回ジュースや和え物にして試食することにした。

<ねらい>

ゴーヤーの成長や収穫を喜び、食欲につなげる。

<活動方法>

身近でゴーヤーの苗を植え成長を見守り、収穫したゴーヤーを使って、調理員がゴーヤージュースや和え物など、間近で調理した後試食する。

<子どもの姿>

調理員が作る姿を真剣なまなざしで見ている。試食の後は、「おいしい」や「苦い」等のゴーヤーに対する感想や、家庭で食べているゴーヤーやスーパーなどで売られているゴーヤーについての会話も聞かれた。

<結果・考察>

沖縄を代表する夏野菜と言えばゴーヤーですが、子ども達にはいまひとつ人気がない。見た目や、味の苦味から敬遠されがちなゴーヤーでしたが、今回のおいしい会での試食においては、みんな「食べたい」「飲みたい」との声が多く聞かれた。実際に試飲すると、「おいしい」と言う子や、顔を歪め「苦い」と言う子もいたり様々でしたが、誰もが、ゴーヤーに触れ、飲み、食べることで満足した様子が伺えた。2日後、昼食にでたゴーヤーサラダに、以前までは残していた子も嫌がらず食べたと言う話が聞かれ嬉しく思った。実際に食材に触れ、調理する過程を見たことによる効果が感じられた。

【おいしい会10月の実践】クッキー作りを楽しもう！

<動機>

お菓子を作ることが好きだと言う男性職員が、子ども達にもお菓子作りの楽しさを伝えたいという思いから。

<ねらい>

クッキー作りに興味を持ち、クッキーの材料や手順など作る楽しさを知る。

<活動内容>

クッキーを作るための道具や材料、手順等、調理員の実践を見ながら教えてもらう。生地ができあがったら、クッキーの型抜きに挑戦する。

<子どもの姿>

目の前で調理員が卵を混ぜたり、小麦粉を混ぜてクッキーの生地を作る様子を、身乗り出して眺めている。クッキー作りの型抜きには、緊張した表情を見せるものの、魚や花の形に抜き取れると喜んでいる。→おやつの時に食べる。(おいしい会で作ったクッキーだと話しながらおいしそうに食べている)

<結果・考察>

大好きなおやつ作りだということで、子ども達も張り切って参加している。クッキーを作るためには、いろいろな道具や時間がかかることなどを知る事ができた。自分が作ったという思いがあるのか？おやつの時の会話がはずんでいた。ふだん食べているおやつの材料や手順を知ること、これまでより興味関心が広がり、それが保護者に伝わることの重要性を感じた。

7. まとめ

今年度はこれまでの実践をより深めていけるよう、食育グループを立ち上げたことにより、全体の年間計画の見直し、さらに各クラスの食育計画の充実が図られ、子ども達の「食」への関心が高まったように感じる。

これまで行ってきた食事のサンプル展示、食事前の食材紹介・説明を通して、栄養素の分類や食べ物の働きについて興味関心が広がってきた。また「おいしい会だより」を掲示することにより、登降園時には、写真などを指差し「今日こんなことをしたんだよ」「〇〇食べた」などと、親子で楽しそうに会話をしている姿も見られるようになった。また、食についての会話をおたより帳に載せることにより、保護者と保育士・保護者と子どものコミュニケーションが図られるようになってきた。

食についてのアンケートでは、「食育」に対して関心がある保護者が予想以上に多く期待が持てた。また保育園での食事やおやつ、現在行っている食育活動に対して、満足しているとの声が多く寄せられたことは良かった。しかし、家庭における食育をどのようにしていけばよいかわからないとの意見も多かったため、今後も園から家庭へと食の大切さを伝えていくと共に、子ども達の安定した心を育てていくために豊かな食の体験を積み重ねていき、子ども達が食べる喜び、生きる力を「食」から学んでいけるようにしたい。

8. 課題

- ①保護者に食の重要性や食育についての知識・情報を伝えていく手立て
(保護者との連携・保護者参加型の食育の取り組み・食に対する意識改革など)
- ②栽培に関する職員の認識不足・勉強不足

③調理員と子ども達の関わりのもち方

- * 子ども達を中心とした食育を進めていく中で、職員同士共通理解をし、食育についての学びを深めながら保護者と共に「食育」の充実を図っていきたい。

参考文献 吉田隆子～子どもの心と体を育てる～「食育ガイドブック」メイト

*園のテーマ

「 心と体を育てる楽しい食育 」

食を営む力の基礎を培い、楽しく食べる子供に成長するために → 目指す子ども像

- (目標)
- 1、食べる意欲を育み、食事を楽しく食べる。
 - 2、食事のマナーを身につけ、感謝する気持ちを育む。
 - 3、栽培や収穫、調理する喜びを味わいながら、食材の働きや食事の大切さを知る。

- (5つの視点)
- ①お腹がすくりズムのもてる子ども
 - ②食べたいもの、好きなものが増える子ども
 - ③一緒に食べたい人がいる子ども
 - ④食事づくり、準備に関わる子ども
 - ⑤食べ物を話題にする子ども

食育年間カリキュラム (3歳児～5歳児)

クラス	テーマ	ねらい	指導計画と食育環境	I期 (4・5・6月)	II期 (7・8・9月)	III期 (10・11・12月)	IV期 (1・2・3月)	配慮事項・留意点	
梅組 (3歳児)	「食事をすることはうれしい!たのしい!だいすき!」	・食事やおやつ時間の楽しみ、情緒の安定を図る。 ・食事のマナーや、お箸の使い方を身につける。	指導計画と食育環境	<ul style="list-style-type: none"> よく噛んで食べる。 食事の必要量がわかる。 マナーを身につける。 	<ul style="list-style-type: none"> 体をいっぱい動かし、空腹を体験し、食べる意欲を育てる。 マナーを身につける。 	<ul style="list-style-type: none"> 食材の名前を知ろうと意欲をみせる。 マナーを身につける。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達と一緒に楽しく食事をする。 マナーを身につける。 	<ul style="list-style-type: none"> 個人面談やれんらく帳を通して、家庭との連携を取り、ひとりひとりの環境の変化を把握していく。 ひとりひとりに合った食事の量や、体調に気づき、無理をさせない食事をさせる。 一年間を通して食事のマナーを、保育士が見本となり、わかりやすく伝えていく。 	
百合組 (4歳児)	「食とテーブルマナー」	・保育士や友達と一緒に楽しく食事をすすめる。 ・挨拶や姿勢などに気づき、テーブルマナーを身につける。		<ul style="list-style-type: none"> 食材に興味をもち、保育士や友達と一緒に楽しく食事をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶や姿勢など気持ちよく食事をすすめるためのマナーを身につける。 	<ul style="list-style-type: none"> 栽培、食事などを通して、身近な存在に親しみをもち、命を大切にすることを学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な食材を使って、調理を楽しんだり、異年齢で食事を楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> 食卓バイキングをあじわえる楽しさを設定する。 クッキングを体験する前に、遊びを取り入れていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 食材の働きを知らせたり、体との関係をエプロンシアターや絵本などを通して、わかりやすく説明し興味をもてるようにしていく。 身近な野菜の生長が、楽しめるよう当番で世話をさせ親しみが感じられるようにし、大切にすることを学ぶ。 保育士や友達と一緒に食事をする事で、食べる意欲が持てるようにし、食べれなかった物が食べれたときには褒めてあげる。
桃組 (5歳児)	「楽しくみんなで食べる。」	・食事の大切さを知る。 ・種まきや苗植えを通して植物の成長に関心をもつ。 ・収穫を喜び、料理に利用する。		<ul style="list-style-type: none"> 食事の大切さを知ると共に身近な植物に親しみ、種まきや苗植えを通して植物の成長に関心をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> 野菜を育てたり、収穫をして料理に利用し楽しみ、食に対する関心をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> 季節に合った植物の種まきや苗植えをし、収穫を喜んだり食に対する関心をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> 育てた植物の収穫をして料理に利用し、食べることを喜び、食に対する関心をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> みんなで作る楽しさを味わいながら、野外会食をしたり、バイキングを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> みんなで食べる楽しさを味わえるように、テーブルクロスやCDを用意したり、危険物が無いかを確認して、野外でおいしく食べれるように配慮する。 枯れないように植物に水をかけたり、太陽の光が当たるように場所を変えながら大切に育てていく。

食育に関するアンケート結果

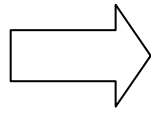
1. お子さまの年齢（ 11ヶ月 1歳 2歳 3歳 4歳 5歳 6歳 ）
*アンケート結果 [1%] [20%] [25%] [20%] [13%] [20%] [10%]
2. お子さまの起床・就寝時間（平均）は何時ですか？ *結果
起床時間（ 午前 時 分 ） [平均・・・午前7時]
就寝時間（ 午後 時 分 ） [平均・・・午後9時]
3. a) 毎日朝食は食べますか？（ はい ・ いいえ ）
*結果 [86%] [8%]
b) 「いいえ」と答えた方はその理由を教えてください。
*結果 {・食事の準備をするが、子どもが食べない[1%]、時間がない[1%]}
4. 朝食は何時ごろ食べますか？（ 午前 時 分頃 ）から約（ ）分間
*結果 [平均・・・午前7時から約20分間]
5. 朝食の主食は何が多いですか？（ ご飯 ・ パン ・ その他（ ） ）
*結果 [50%] [47%] [2%]
6. 排便はどうですか？（ 毎日ある ・ 2～3日に一度 ・ 4～5日に一度 ・ その他 ）
*結果 [72%] [20%]
7. a) 降園後から夕食までに間食をとりますか？（ はい ・ いいえ ）
*結果 [52%] [44%]
b) 「はい」と答えた方はおもに何を食べますか？（ ）
*結果（ お菓子[19%]、パン[16%]、果物[8%]、ソーセージ[3%]、その他[2%] ）
8. 夕食は何時ごろ食べますか？（ 午後 時 分頃 ）から約（ ）分間
*結果 [平均午後7時から約30分間]
9. 夕食の主食は何が多いですか？（ ご飯 ・ パン ・ その他（ 麺類 ） ）
*結果 [91%] [1%]
10. 食事は誰と食べますか？（家族みんなで食べる ・ きょうだいだけで食べる ・ 一人で食べる）
*結果 [98%] [2%]
11. お子さまが食事をする時、気をつけていることはありますか？（ はい ・ いいえ ）
*結果 [94%]
a) 「はい」と答えた方はどのようなことに気をつけていますか？（複数回答可） *結果
ア、マナー（あいさつする、テレビを見ない、肘をつかない等） [76%]
イ、よく噛む [33%]
ウ、主食と副食を交互に食べる [30%]
エ、家族と一緒に食べる [45%]
オ、箸やスプーンの使い方 [44%]
カ、楽しく食べられる雰囲気をつくること [35%]
キ、苦手な食べ物も食べるようにしている [50%]
ク、残さず食べる [33%]
ケ、その他（ ）

12. お子さまの食生活で困っていることや心配なことはありますか？（ はい ・ いいえ ）
*結果 [84%] [8%]
a) 「はい」と答えた方はどのようなことですか。
ア、好き嫌が多い イ、少食 ウ、遊び食べ エ、噛まない オ、その他（ ）
*結果 [25%] [23%] [33%] [11%] [1%]
13. 保育園の給食メニューを参考にして、献立を決めたりしていますか？（ はい ・ いいえ ）
*結果 [62%] [37%]
保育園の給食のメニューのレシピなどがあれば、欲しいと思いますか？（ はい ・ いいえ ）
*結果 [76%] [23%]
14. 保育園で行っている食育活動を知っていますか？（ はい ・ いいえ ）
*結果 [54%] [30%]
保育園で行なっている食育活動についてご意見や感想をお聞かせ下さい
*結果
・野菜を嫌う傾向にある幼少期でと思うが、オクラやゴーヤーなどを栽培し食事のメニューに自分で育てている野菜が入っていると会話も弾み、野菜も頑張ってくれてくれるのでとても良い事だと思います。
・家で、食事をする時も栄養素の働きについて「ご飯は、遊ぶパワーを作ってくれるよ」など話題が広がり毎日の食事が自分の体を丈夫にするものだという意識づけにつながり有難いです。
・食事でバイキングや自分でおにぎりを作るなど、すごくいい体験だと思うのでこれからも続けてほしいです。
15. 保育園の給食やおやつ・食育活動についてお子さまから話題にあがりますか？（ はい ・ いいえ ）
*結果 [45%] [40%]
16. 菜園作りやお子さまと一緒にクッキングなど、食育のための活動があれば参加したいと思いますか？
（ はい ・ いいえ ）
*結果 [71%] [11%]
17. 保育園の食育（給食やおやつも含む）にどのようなことを期待しますか？
*結果
・食べ物を無駄にしない、大切に作る、作ってくれる人に感謝する心を育む
・栄養バランスの良い食事
・季節の地元の食材（ゴーヤー）などを使ったメニュー
・おいしく楽しく食事することを期待する。
・子どもと楽しく作れるメニュー、アイデアメニューのレシピを教えてください
18. お子さまの食事について、また、食育に関して感じていることやご意見などがございましたら、お聞かせ下さい。
*結果
・家での食事が、子どもに合った固さや大きさなのか？
・食事を通して教えることが多いので食育は、子育ての中でとても重要である。
・仕事を終えてから夕食作りをするので、簡単なものになり、短時間で食べているので食育ができていないか不安である。
・バラエティー豊富な給食やおやつを頂く事ができるのは、幸せだと思います。
・好き嫌いをなくせるよう工夫している。
・食育を行いたい、どのように進めたらいいのかわからない。

*おいしい会活動

*おいしい会活動内容

おいしい会とは



食育担当グループが「食」について、子ども達に興味関心を深めてもらうために集う会の名称で、毎月、第2木曜日の朝、15分を目安とした全体集会。その内容や活動は、食育担当が立案する。

月	4・5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
活動内容	・会の名称決め ・活動内容の話し合い	・エプロンシアター	・野菜の話	・ゴーヤーの試飲食	・紙芝居(マナーについて)	・クッキー作り	・紙芝居(好き嫌い)	・野菜の違い・種類	・パネルシアター	・クッキングを楽しむ	・野菜の歌を歌おう

平成20年度 クラス別食育実践計画表

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
行事食	・祝ランチ	・こいのぼりランチ		・七夕ランチ		・祖父母ご膳		・七五三ランチ	・クリスマスランチ	・お祝いご膳 ・七草粥	・福の内ランチ	・ひな祭りランチ
クラス												
苺組(0歳)	<ul style="list-style-type: none"> ・食に対する絵本を見る ・スプーンを使って、食べる ・イスに座って食べる ・「いただきます」「ごちそうさま」の挨拶がきちんとできる ・友達と一緒に食事を楽しむ 											
桜組(1歳)	<ul style="list-style-type: none"> ・食に関するエプロンシアターを楽しむ ・弁当の日にテラスにて食事 ・弁当会の日に他クラスと食べる ・献立の話聞く ・野菜カードを見て楽しむ、遊ぶ ・他クラスと食事をとる 											
菊組(2歳)	<ul style="list-style-type: none"> ・食材紹介を通して、いろいろな食材の名前を知る ・いろいろな食品を楽しみ雰囲気の中で食べる ・トレイを使い食事をする ・野菜栽培(いんげん)の水まきをする ・バイキング形式の食事をする。 											
梅組(3歳)	<ul style="list-style-type: none"> ・当番活動を始める ・食材紹介をし、様々な食材に親しむ ・いんげんまめの栽培をする ・お箸を使う → 収穫(クッキング) ・カレーバイキングを楽しむ ・おやつ作りをする ・クリスマスランチを楽しむ ・もちつき大会に参加する ・おにぎりパーティーをする ・百合組との食事会を楽しむ 											
百合組(4歳)	<ul style="list-style-type: none"> ・食材紹介を通して、いろいろな食材の名前を知る ・カレーバイキングをする ・当番が食材を紹介する ・きゅうり、ナス、ピーマンの苗植え → 収穫(クッキング) ・ホットケーキ作り ・おにぎりパーティーをする ・サンドイッチ作り ・クリスマスランチを楽しむ ・ねぎの苗植え → 収穫 ・もちつき大会に参加する ・食育のカルト遊びを楽しむ ・異年齢との昼食を楽しむ 											
桃組(5歳)	<ul style="list-style-type: none"> ・食材紹介を通して、いろいろな食材の名前を知る ・バジルの苗植え → 収穫 ・バジルスパゲッティ作り ・種まき(ミニトマト) → 収穫 ・ピザ作り ・おにぎり作り ・クリスマスランチを楽しむ ・ムーチャー作り ・おやつ作り ・テラスでの食事 ・ホットケーキ作り 園外での食事 											
おいしい会	<ul style="list-style-type: none"> ・栽培用土づくり ・ゴーヤー棚作り ・苗植え(ゴーヤー) 8月に収穫 ・落花生の苗植え 10月収穫 ・種まき(ミニトマト) 12月収穫 ・きゅうり、インゲンの苗植え 12月収穫 											

クラス実践1 (おにぎりパーティーをする)



自分の好きな具材を中に入れ丸めて
出来上がり！
みんな自慢気に見せています。
「おいしそうでしょ〜」

クラス実践2 (調理員とのふれ合い)



「調理員の先生の話はすごいな〜」
みんな真剣に聞いています。
「これはなあに？」
「しいたけ？」{わかんない？}
「教えてー」

おいしい会実践1 (ゴーヤーの収穫を楽しもう！)



ゴーヤー収穫
「みてみて
上手にとって
いるでしょう」



おいしい会・
ゴーヤー試飲
食の材料。
その日の朝、
園庭から取っ
てきました。

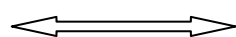


みんなでゴーヤー
ジュースを飲んだ
ら・・・。
「おいしいな」
「にがいよ〜」

おいしい会実践2 (クッキー作りを楽しもう！)



私たちがパティシエ
です！



クッキー作りの説
明・実践中です。
子ども達は真剣！



「クッキーの型抜きは楽しいなあ。でも少し緊張したよ！」

型抜きした生地は、おやつで食べました。
いつもより会話の多いおやつタイムになりました。

*クラス実践も、おいしい会での実践も子ども達主体で進めている。

自由研究

『保育者としての資質・能力の熟達に関する調査研究』

日本保育士協会・村山中藤保育園 若山 望

1. 研究の主旨

現在、保育を取り巻く環境は大きく変化してきており、様々な動きの中で保育士は専門職として、その資質・能力の向上が求められている。しかしながら、保育者が自身の保育者としての資質・能力の現状をどのように理解し、それらをどういった方向に、どのように向上させていったらよいのかといった点に関しては十分に検討されていないようにも思われる。

そこで本研究では、「保育士版」と「園長・主任保育士版」の2つの質問紙を作成し、それぞれにおいて調査、検討を進めることで、保育者として成長していくプロセスの中で、どの時期に（経験年数別に）どういった資質・能力を獲得していくことが必要であるのかを明らかにしていく。そして、保育者が自分の資質や能力の現状を評価し、それをどのように向上させていったらよいのかについて理解するための指標を得たいと考える。

2. 研究方法

(1) 調査の対象

調査の対象は、保育園長・主任保育士 72 名、保育士 616 人である。

(2) 質問紙の内容

質問紙は、「保育士版」と「園長・主任版」を作成した。その概要は、保育士版は、保育士の資質・能力に関する7区分の各々について、日頃の保育実践の中で何が身に付いていると感じているか自由記述で回答するものである。また、園長・主任版は、保育士の資質・能力に関する7区分の各々について、経験年数別に身に付けてほしい資質・能力を自由記述で回答するものである。

なお、質問紙を作成するに当たり、保育士の資質・能力を捉えるための指標を得るために、保育士の資質・能力に関する7区分を仮説的に作成した。それらは、①社会性、②意欲・態度、③コミュニケーション、④保育実践力、⑤子育て支援、⑥子どもの人権擁護、⑦虐待の予防・防止からなるものである。また、保育士としての経験年数に関しては、新人保育士（経験年数1～3年）、中堅保育士（経験年数4～9年）、ベテラン保育士（経験年数10年以上）の3区分を設定した。

3. 結果

(1) 保育士自身が捉える保育士として必要となる資質・能力

本調査研究では、保育士の資質・能力に7つの視点から検討したが、ここでは、経験年数による記述の差が特に顕著に現れた「保育実践力」、「子育て支援」の2つを中心に検討していく。

① 保育実践力

保育実践力に関しては、新人保育士が「発達の理解」、「発達に応じた援助」などを意識しているのに対して、中堅保育士になると「個に応じた保育実践」、「子どもの育ちの実感」となり、更にベテラン保育士になると「発達の理解、発達に応じた援助」、「個に応じた保育実践」、「見通しを持った保育実践」などとなっている。つまり、新人保育士は、養成校などで学んできた子どもの発達などについての知識と実際に生活している子どもの姿とのすり合わせを行っている時期であるのに対して、中堅保育士では個々の乳幼児に応じた対応を心掛けるようになり、更にベテラン保育士になると、個々の育ちに対して長期的な見通しが持てるようになり、それらを指導案の作成などに活かしていけるようになってくることが示された（図-1、表-1）。

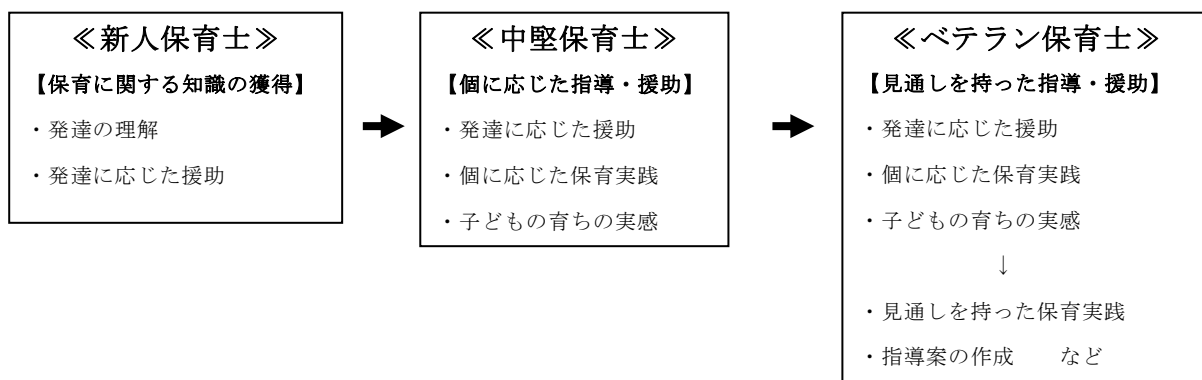


図-1 経験年数による“保育実践”に関する資質・能力の違い

② 子育て支援

子育て支援に関して、新人保育士、中堅保育士、ベテラン保育士の具体的な記述内容を見ると、「雰囲気作り」「子どものことを話す」「保護者の受容」などほとんど記述内容に大きな変化が見られなかった。保育士に対しては、“その行う保育に支障にない限りにおいて、地域の保護者などに対する子育て支援を積極的に行うよう努めること”になっているが、今回の調査結果では、保育士は保育所に入所している乳幼児に対する日々の保育やその保護者の子育て支援に対する意識は高いものの、それ以上のこと（地域の保護者に対する支援など）についてはあまり意識されていないことが示された（図-2、表-2）。

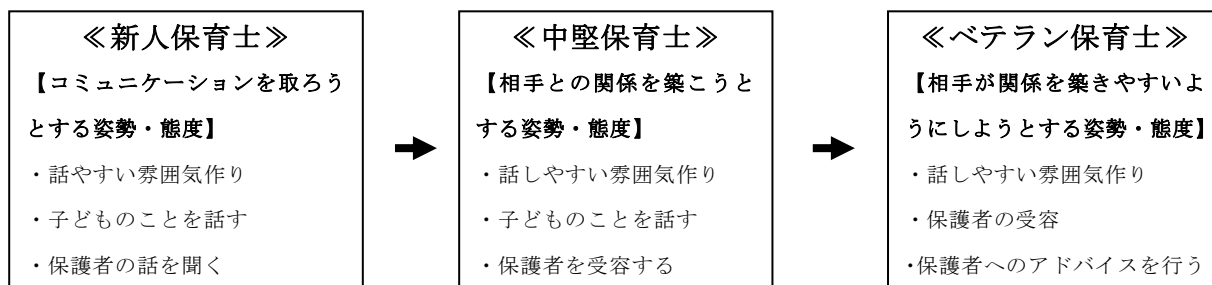


図-2 経験年数による“子育て支援”に関する資質・能力の違い

(2) 園長・主任保育士が期待する資質・能力

園長や主任保育士は、保育士がその経験年数を積み上げていく中で、どのような資質や

能力を獲得していくことを期待しているのだろうか。これについても、調査結果の中から、「保育実践力」「子育て支援」の2つを中心に検討を行っていく。

① 保育実践力

新人保育士に対しては、「子どもの発達や保育所保育指針の理解」、「一生懸命保育実践に取り組む」、「保育を理解しようとする」といった、保育に関する基本的な知識の習得と保育実践に対する意欲・姿勢面を期待しているのに対して、中堅保育士には「個々の乳幼児へ対応できる」、「保育実践の工夫・提案を行う」、「新人保育士の指導をする」など日々の保育実践を自立して実践ができること、ベテラン保育士に対しては、「個々の乳幼児の状況に応じて対応を変えられる」、「見通しを持った保育ができる」、「園の経営への参加をする」、「地域に子育て情報の発信ができる」など、個々の乳幼児の状況に応じた保育実践だけでなく保育園全体の保育に関する貢献や地域に対する子育て指導なども期待している。つまり、経験年数を重ねるに応じて、子どもや保育の理解から次第に保育実践の工夫や提案、後輩の指導、更には地域にまで視野を広げていくことを期待するようになり、ベテラン保育士に対しては、園の経営参加まで期待する園長や主任保育士がいることも明らかとなった(図-3、表-3)。

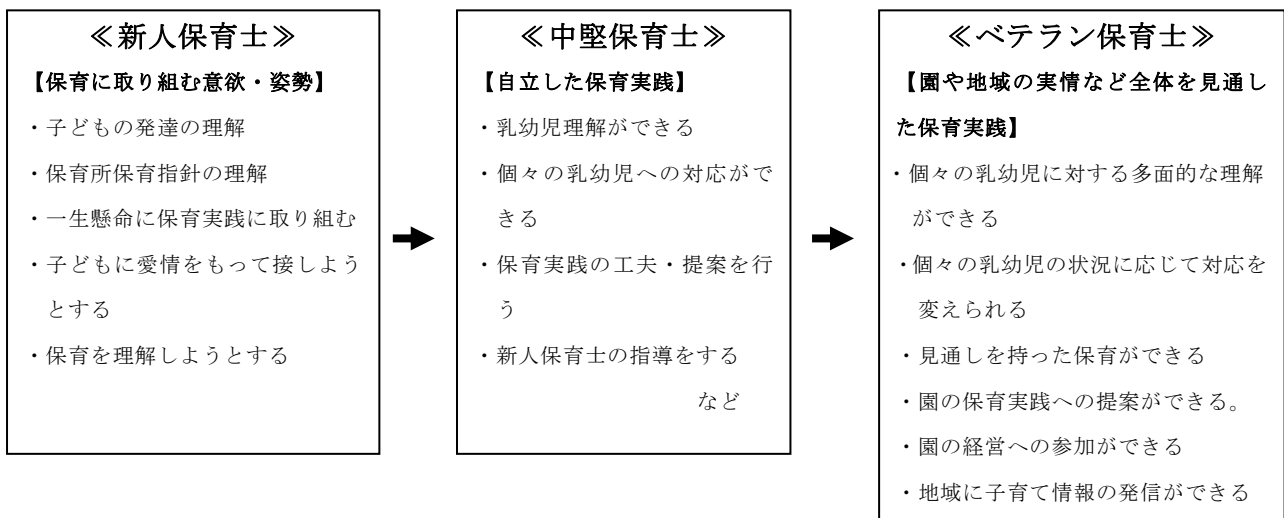


図-3 園長・主任保育士の期待する“保育実践”に関する資質・能力

② 子育て支援

子育て支援に関して園長・主任保育士は、新人保育士に対しては「保護者を理解しようとする」、「保護者に子どもの様子を話す」であり、保育園に子どもを預けている保護者に対して、自分のできる範囲での子育て支援を行おうとする意欲・姿勢面を期待している。一方、中堅保育士になると「保護者にアドバイスできる」、「保護者から信頼される」、「保護者に共感できる」など、保護者に対する子育て支援・保育指導が適切にできることを期待しており、ベテラン保育士になると「家庭や地域の状況を把握している」、「子育て情報の発信ができる」、「他の専門機関と連携している」など保護者の対応だけでなく、地域全体に対する子育て支援への取り組みや他の専門機関と連携できることなども期待するようになっている。(図-4、表-4)

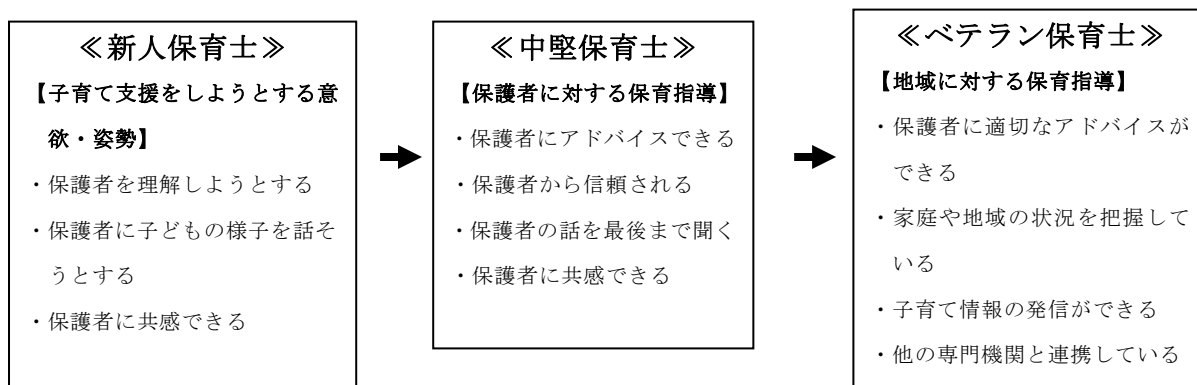


図-4 園長・主任保育士の期待する“子育て支援”に関する資質・能力

4. 全体考察と今後の課題

今回の調査結果より、保育士が意識している保育士として自分が経験を積んで行く中で獲得してきた資質・能力と、園長・主任保育士が経験年数別に獲得することを期待している資質・能力との間には差があることが明らかとなった。

例えば「保育実践力」についてみると、園長・主任保育士が獲得していることを期待する資質・能力は、中堅保育士から期待する内容が高くなり、その内容も多面的となっていることが示された。特にベテラン保育士に対しては、「園の保育全般に対する提案ができる」、「園の経営に参加できる」といったことを期待する記述まで見られている。しかしながら、保育士自身はそこまでは意識しておらず、ベテラン保育士でも、日々の保育実践に携わる中で「個々の子どもに対して見通しを持った保育実践ができる」に留まっており、園長・主任保育士と保育士自身との間に見られる差異は、経験年数が長くなるほど大きくなることが明らかとなった。

この傾向は、「子育て支援」に対しても同様の傾向が見られる。例えば、「子育て支援」について見てみると、園長・主任保育士はベテラン保育士に対して「家庭や地域の実情を把握している」、「地域に子育て情報の発信ができる」など、その保育園を取り巻く地域全体に対する子育て支援者としての資質・能力の獲得を期待している。しかし、保育士自身は、「保護者を受容する」、「保護者に対して子育てのアドバイスができる」といったことに留まっている。つまり、多くの保育士は、経験年数を重ねていく中で、子ども一人一人の育ちへの見通しを持った保育実践や保護者に対する適切な関わりができるようになってきたと意識するが、地域に対する子育て支援は、保育士が個人として何かを行っていくことは現実的には難しいこともあり、そこまでは意識されていないことが示された。

以上の結果と、これまで自己評価チェックリストなどで示されてきた保育士に必要とされる資質・能力の内容を比較して見ると、これまで保育者に必要とされてきた資質・能力は、どちらかといえば本調査の園長・主任保育士が期待している資質・能力の内容に近いものであると考えられ、保育士自身の意識とは、若干差異があるように思われる。しかし、保育士を取り巻く環境は変化してきており、保育士に対しては、対人援助の専門職として、社会からもより高い資質・能力が求められるようになってきている。従って、特に中堅保育士、ベテラン保育士に対して園長・主任保育士が期待する資質・能力

を、保育士の実態や実情に合わせていく必要があると思われるものの、現場の保育士は、更に高い意識を持って保育士としての自身の資質・能力の向上に努めていかななくてはならないと考える。そして、両者間にある差異を少なくしていくことが今後の課題であるように思われる。

しかしながら、新人保育士に対しては、どちらかといえば意欲や態度面が強調されている一方で、中堅保育士やベテラン保育士に対しては、具体的な成果が求められる傾向が示されるなど、今回の調査結果から、保育現場において中堅保育士・ベテラン保育士に対して大きな負担がかかっている可能性があることも示されているように思われる。新人保育士が、即戦力にならないという指摘はよく聞かれるが、保育士養成校とのより親密な連携や養成プログラムの内容の検討といったことから、新人保育士の実践力をいかに向上させていくのかということも今後の課題であるように思われる。

本調査から明らかとなった課題は、大きく次の2つとなる。まず一番目として、園長や主任保育士が期待する資質・能力と保育士自身が獲得したと意識している資質・能力との間には、経験年数が大きくなるほど、その差異も大きくなるということである。そして、このことが中堅保育士、ベテラン保育士の保育現場における負担感を増大させていく要因となる可能性もある。しかしながら、保育士に対しては、より高い資質・能力が期待されるようになってきていることも事実である。従って、両者の差異をすり合わせていくことによって、経験年数別により具体的にどのような資質・能力の獲得が望まれるのかを明らかにしていくことが今後必要であると考えられる。

二番目として、保育士は改めて専門職としての意識を持ち、そのために必要な資質・能力の向上に更に努めていくべきであるということである。今回取り上げた“保育実践力”、“子育て支援”だけに限らず、全ての項目において園長・主任保育士と保育士の間には、資質・能力に対する意識の違いが見られている。これに対して、現場の保育士は、専門職として大きな期待をかけられているという現状を受け止め、より多くのニーズに応えるべく、保育園内だけに留まらず、地域社会などにもその視野を広げていく努力をしなければならぬと考える。

今後は、質問紙における記述内容を更に分析しながら、経験年数別に具体的にどのような資質や能力の獲得が望まれるのかを明確にしていきたい。

最後に、本研究にご協力いただいた相模女子大学の齋藤正典先生には、心より感謝申し上げます。

【参考文献】

日本保育士協会調査研究部 『保育者としての資質・能力の熟達に関する調査研究』報告書 2008年3月

表－1 保育士自身が捉える「保育実践力」自由記述集計結果

新人保育士		
回答内容	%	回答数
発達の理解	36.9%	65
発達に応じた援助	15.9%	28
指導案の作成	6.8%	12
まだ勉強が必要	6.8%	12
個に応じた保育実践	5.7%	10
保育のねらい・目標の達成	5.1%	9
子どもの育ちの実感	5.1%	9
子どもの園での生活	4.5%	8
子どもに愛情をもって接する	4.0%	7
その他	9.1%	16
合計	100.0%	176

中堅保育士		
回答内容	%	回答数
発達の理解	23.2%	63
発達に応じた援助	19.9%	54
個に応じた保育実践	14.8%	40
子どもの育ちの実感	11.1%	30
保育のねらい・目標の達成	10.0%	27
発達に応じた保育の構想	5.5%	15
保育指針の理解	4.8%	13
子どもの受容	2.6%	7
子どもの園での生活	2.6%	7
保育者としての成長の実感	2.6%	7
その他	3.0%	8
合計	100.0%	271

ベテラン保育士		
回答内容	%	回答数
発達の理解	22.8%	42
発達に応じた保育実践	17.9%	33
子どもの育ちの実感	13.6%	25
見通しを持った保育・指導案の作成	11.9%	22
個に応じた保育実践	10.3%	19
子どもの受容	4.3%	8
子どもの園での生活	4.3%	8
設定保育	3.8%	7
保育指針の理解	2.9%	5
その他	8.1%	15
合計	100.0%	184

表－2 保育士自身が捉える「子育て支援」自由記述集計結果

新人保育士		
回答内容	%	回答数
雰囲気作り	27.4%	87
子どもの様子を伝える	18.9%	60
保護者の立場に立つ・受容	15.4%	49
保護者の話を聞く	10.4%	33
質問への回答	8.8%	28
保護者への確認	5.7%	18
保護者の観察	4.7%	15
話しかけ	4.7%	15
挨拶	2.0%	7
その他	2.0%	6
合計	100.0%	318

中堅保育士		
回答内容	%	回答数
雰囲気作り	24.7%	87
子どもの様子を伝える	15.3%	54
保護者の受容	14.2%	50
話しかけ	11.1%	39
質問への回答・アドバイス	9.9%	35
保護者の話を聞く	7.4%	26
個々の保護者に応じた対応	4.8%	17
保護者への確認	3.7%	13
情報提供	2.3%	8
その他	6.5%	23
合計	100.0%	352

ベテラン保育士		
回答内容	%	回答数
雰囲気作り	21.0%	56
保護者の受容	19.1%	51
子どもの様子を伝える	10.5%	28
話しかけ	8.6%	23
保護者へのアドバイス	8.2%	22
保護者の話を聞く	7.5%	20
自分の経験	5.6%	15
質問への的確な回答	3.7%	10
保護者への支援	3.0%	8
その他	12.7%	34
合計	100.0%	267

表-3 園長・主任が期待する「保育実践力」自由記述集計結果

新人保育士	
回答内容	%
乳幼児の発達の理解	22.9
子どもの立場に立てる	17.1
保育所保育指針の理解	17.1
乳幼児と一緒に遊べる	14.3
当面する仕事を一生懸命行う	5.7
安全への配慮	5.7
園の方針の理解	5.7
その他	11.5
合計	100.0

中堅保育士	
回答内容	%
個々の乳幼児への対応ができる	37.0
乳幼児理解(内面、発達の理解)	34.8
保育実践の工夫・提案	4.3
新人保育士への指導	4.3
安全への配慮	4.3
園の方針の理解	4.3
その他	11.0
合計	100.0

ベテラン保育士	
回答内容	%
乳幼児の多面的な理解	22.8
個に応じた対応ができる	22.8
他の保育者の指導	12.3
乳幼児への具体的な対応を複数提案できる	12.3
見通しを持った保育ができる	8.8
保護者へのアドバイスができる	7.0
子どもに寄り添うことができる	5.3
その他	8.7
合計	100.0

表-4 園長・主任が期待する「子育て支援」自由記述集計結果

新人保育士	
回答内容	%
保護者の話を聞く	32.2
子どもの様子を保護者に話せる	19.4
保護者に共感できる	12.9
保護者にアドバイス	12.9
子育て支援者という自覚を持つ	9.7
まだ何もできない	6.5
その他	6.4
合計	100.0

中堅保育士	
回答内容	%
保護者へのアドバイスができる	33.3
保護者から信頼される	15.2
保護者に積極的に話しかけることができる	15.2
保護者の話を最後まで聞く	9.1
保護者に共感できる	9.1
子育てのすばらしさを伝えられる	6.1
研修会への参加	6.1
その他	5.9
合計	100.0

ベテラン保育士	
回答内容	%
保護者への適切なアドバイスができる	50.0
家庭、地域の現状の理解	16.7
子育て情報の発信	13.9
保護者に寄り添う	11.1
他の専門機関との連携	5.6
子育て支援者としてのプロ意識を持つ	2.7
合計	100.0